



損保ジャパン本社ビルで「ゼロエミッション」達成

株式会社損害保険ジャパン（社長：櫻田 謙悟、以下「損保ジャパン」）は、廃棄物の削減を目指し、排出されるごみをリサイクルする（廃棄物量の埋め立て処理量をほぼゼロとする）ゼロエミッション^{※1}の取り組みを進めてきました。

このたび、損保ジャパン本社ビル（東京都新宿区）において、廃棄物総量の99%以上をリサイクルすることに成功し、ゼロエミッションを達成しました。

※1：国連大学が提唱する廃棄物の排出（エミッション）をゼロにする循環型産業システムをいいます。

1. ゼロエミッションの定義

損保ジャパンでは、「廃棄物総量の99%以上をリサイクルすること^{※2}」をゼロエミッションの定義としています。

※2：リサイクルには、サーマルリサイクル（熱回収）を含みます。

2. 本社ビルにおける取組内容

損保ジャパン本社ビルでは、1999年10月にISO14001の認証を取得しました。その後も損保ジャパンの環境対策の取組方針を定めた「損保ジャパン環境方針」に基づき、紙2種類、缶、ビン、ペットボトル、生ごみなどの廃棄物を18項目に細分化してリサイクルを実施するなど、省エネルギー・省資源に地道かつ継続的に取り組んでいます。

また、本社ビルに在籍する約4,000人の社員への環境教育や意識向上のためのエコパトロール（ごみ分別の実施チェック）などを実施しています。

2010年10月には、従来リサイクルできていなかった一般廃棄物の一部をサーマルリサイクル（熱回収）することで、本社ビルにおいて99%のリサイクル率を達成し、2011年度は99.7%のリサイクル率を維持することができました。

3. 今後の取り組み

損保ジャパングループでは、2002年にコンピューターセンターである事務本部ビル（東京都西東京市）において、金融機関で初めての「ゼロエミッション事業所宣言」をしており、今回はそれに次ぐ達成となります。今後もゼロエミッションを維持し、エコ・ファースト企業として環境負荷低減への取り組みを継続するとともに、商品・サービス面での環境配慮など、本業を通じた環境問題の解決に取り組んでまいります。

以上